

第3章

横につなげた支援の輪を縦につないでいこう (縦のつながり)

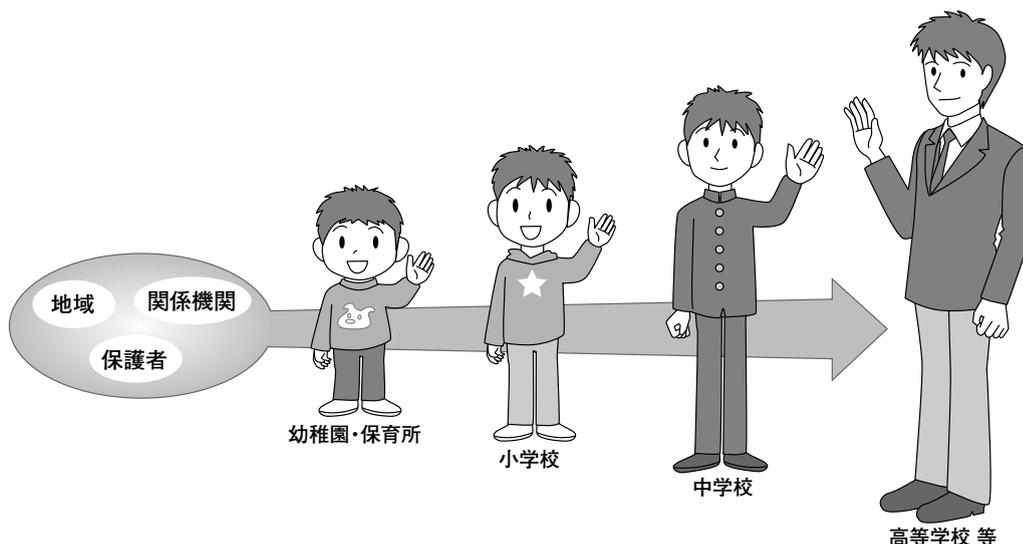
第1章で述べられているように、「個別の教育支援計画」の重要性は、幼児児童生徒一人一人のニーズを適切に把握し、その子の将来を見据えて有効なチーム支援を継続させていくことにあります。これを教育活動の中でとらえると、幼稚園・保育所から小学校へ、小学校から中学校へ、中学校から高等学校・大学・就労先へ、担任が変わるとき、転校するとき・・・など、節目となるところで、必要な支援をつないでいくということになります。

この章では、小学校へ迎えるにあたって、幼稚園・保育所からこんな情報があると、支援がしやすいのではないかとといった観点にたち、移行先から求められるであろう情報を「プレ支援シート」にまとめ、これを使って、より早い時期から焦点化した引き継ぎを行うことを提案しています。

どの段階の移行でも共通して重要になることに、次の3点が挙げられます。

- ① 移行先の生活や環境、人的資源の違いを認識すること
- ② ①を見越して、今指導することや支援することを見いだすこと
- ③ 何を情報として引き継ぐのが有効かを整理すること

現時点で行っている適切な支援が確実に縦につながるように情報を整理して引き継ぐことが大切です。このことにより、生活環境やかかわる人(担任等)が変わっても、積み重ねられてきた適切な支援内容や方法が変わることなく、その子にとって、より過ごしやすい生活環境となるのです。



幼稚園・保育所から小学校へ

身辺自立や豊かな情緒の育みを願い、幼児を丸ごと受け入れて生活づくりをしてきている幼稚園や保育所。そこから、小学校への移行は大きな転換期を迎えます。確かな情報の引き継ぎがあれば、発達障害のある児童や配慮が必要な児童、保護者、また迎える小学校の教員も安心して第一歩を踏み出せることでしょう。また、「プレ支援シート(※1)」の作成は、幼稚園や保育所でも、その子に応じた適切な支援を早い時期から考えるきっかけにもなります。

(1) 小学校から幼稚園・保育所に参観に行きましょう。

集団行動は苦手、友だちとはトラブル続きで困った〇〇さん。小学校にあがってからは少し心配…。

幼稚園・保育所

保育所の先生方は、〇〇さんにこんな声かけをしていらっしゃるのですね。

特別支援教育コーディネーターの先生にちょっと気になる〇〇さんのことを相談してみようかな。

〇〇保育所からは、支援の必要な幼児は3名あがってきているけれど、〇〇さんはどうだろう…。

小学校

(2) 小学校特別支援教育コーディネーターや来入児係等が中心になって幼児の担当者と一緒にプレ支援シートを作成しましょう。

幼稚園・保育所と小学校生活の相違点

こんなに環境が変わってしまうのですね。保育所では適応出来ていたのに…と言う話を聞きますが、うなずけます。

	幼稚園・保育所	小学校
日 課	活動と活動とが変わり目の大きな区切り	4 5分単位での細かい区切り
活 動	遊びや好きな活動を中心に、動的活動が多いです。具体物や視覚情報を用いた指示が多いです。	教科学習が中心で、静的な活動も増えてきます。言葉や文字による指示が多くなります。
加 配	支援の必要な幼児に担当がつき、じっくり信頼関係を築きながら、生活全般に渡って支援します。	必ずしも加配がつくとは限りません。ついた場合も複数の児童を担当し、一日を通しての支援を受けられないことがあります。
身辺自立	必要に応じた支援を受けながら生活を送ります。	一人で出来ることが前提となり、限られた時間で行います。
居 場 所	幼児の気持ちが安定する所であれば、所属する教室でなくても居場所として認められます。	決められた教室、場所で活動を行います。
行 動	集団に入らず、別行動なども比較的認められています。	学級集団での行動、同一活動への参加が前提になります。
給食準備	保育士が中心となり、園児が手伝うかたちで配膳することが多いようです。	担任の指導のもとで、子ども同士の協力により全ての配膳をします。

※1 p 54, 55, 72 参照

幼児の

こんな視点を大切に、幼児の姿をシートにまとめましょう。

- ・好きな遊び、苦手な遊びは？
- ・好きな遊びからの切り替えの様子？
- ・表現方法(要求、やめて、入れて、ちょうだい等)は？
- ・友だちとのかかわりの様子(本児からの発信、友だちの本児へのかかわり方)は？
- ・日課や場所、手順の変更への適応は？
- ・指示の理解の様子、伝わりやすい伝達方法は？
- ・食べ物の好みは？
- ・におい、音、感触などの苦手さは？

(3) 連絡会議では、小学校の担当者は幼児の担当者と一緒に、以下の内容も確認しましょう。

- ・困り感が本人・友だち・保護者・支援者のどこにあるのかを確認しておきましょう。
- ・幼児担当者から保護者の方の願いを聞き取り、シートに記入しましょう。
- ・支援チームがある場合は、どこでどのような支援を受けているか、確認しておきましょう。
- ・不適応行動については、どのような状況のときに、どのような状態になり、どのように支援しているのかを聞き、シートに記入します。また、どのようなときはうまく適応できているのかも聞いておきましょう。
- ・幼児の様子がつかめたら、小学校担当者から支援方法のアドバイスを行い、新たな支援方法があげられる場合は、幼稚園・保育所で実際に行ってもらい、その様子をお聞きしましょう。
- ・加配の先生の有効な支援方法は、どの先生とでも有効な支援方法になるような工夫をしていただきましょう。

(4) 前年度のうちに入学当初の校内支援体制作りを行い、保護者の方にも理解しておいていただきましょう。

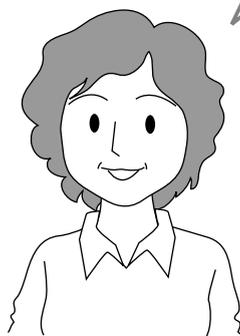
当日、着る洋服を何回か着ておいてもらいましょう。

教室に入れなときは、保健室や図書館を休める場として、担当の先生方に支援をお願いしておきましょう。

特別支援教育コーディネーターと〇〇先生の写真、下駄箱、教室、机、体育館、お便所の写真を春休みに届けて見慣れておいてもらいましょう。

入学式前日に来ていただいて、場所や雰囲気慣れてもらいましょう。

最初の2週間は、担任以外の先生に入ってもらって、本児を支援してもらいましょう。



♡ キーポイント

- 入学前年度の4月からは、「プレ支援シート」を作成しつつ、その観点を大切にしながら子どもの姿を見たり、支援方法を確認したりしていきましょう。
- 幼稚園・保育所の生活と小学校生活で変わる点、今の幼児の姿などを基に小学校生活を想定した支援方法について入学前から考えたり、実際に支援したりすることが大切です。
- 幼稚園・保育所での連絡会議には、可能ならば保護者の参加をお願いするのも有効です。

小学校から中学校へ

発達障害のある子どもが中学校に進学し、通常の学級で生活をしたいと考えている場合は、中学校の特別支援教育コーディネーターが呼びかけて小学校から情報を集め、新入生係と連携をとりながら準備を進めましょう。中学校は教科担任制であり、多くの先生が直接かかわることになります。小学校からの情報を全職員にしっかり伝え、スムーズに移行できるようにしましょう。(※1)

小学校・中学校特別支援教育コーディネーター連携の流れ

5月
小中連絡会

小中コーディネーターが顔合わせをしましょう。
(中学校区コーディネーター連絡会)

- ・年間のおよその活動計画を作ります。
- ・「コーディネーター連絡会開催通知」を中学校長名で通学区域の小学校に出していただきます。

〇〇小学校はこの先生に連絡すればいいのだな。

関係する小中学校の特別支援教育コーディネーター同士が相談し合って取り組めばいいんですね。

10月
コーディネーター連絡会

学級担任が気になっている児童について、小中のコーディネーター同士が情報交換を行います。

- ・「プレ支援シート」の様式や中学校側で必要な情報の内容について確認します。

(※2)

特別な支援が必要な生徒はいないかな。しっかり確認しておこう。

小学校では、中学校進学後特別な支援を必要とするか保護者の方と確認をします。

12月
コーディネーター連絡会

この時期に、中学校の特別支援教育コーディネーターが小学校へ授業や生活の様子の参観に行くことも有効でしょう。

中学校で特別な支援を受けたいと要望があった児童の「プレ支援シート」を、小学校の学級担任が記入します。

特別な支援を必要とする児童についてプレ支援シートを使って具体的な情報交換を行います。

(参加者) 中学校特別支援教育コーディネーター、小学校特別支援教育コーディネーター、小学校担任 など

※1 自律教育シリーズ第3集 p68参照

※2 p54,55,73参照

2月
保護者と懇談

中学校の特別支援教育コーディネーターが保護者との懇談を行います。

(参加者) 対象児童の保護者, 小学校特別支援教育コーディネーター, 小学校担任,
中学校特別支援教育コーディネーター など

- ・「プレ支援シート」を利用しながら情報交換をします。
- ・小学校生活と中学校生活の相違点について, 保護者に知ってもらうことも大切にします。
- ・次回あるいは入学後の懇談の日時を確認します。

新年度 担任や学校の組織決定後

4月
受け入れ準備

- ・新1学年の学年会で特別支援教育コーディネーターが資料を添えて説明します。
- ・特別支援教育コーディネーター, 中学校学級担任, 保護者で今後の支援の方向を懇談します。



特別支援教育
コーディネーター

小学校生活と中学校生活の相違点

	小学校	中学校
日 課	45分単位で5・6時間の授業です。	50分単位で6時間授業の日があります。部活動もあり学校での生活時間が長くなります。
授 業	学級担任がほとんどの教科の授業を担当します。本人や学級全体の状況に応じた対応をしながらの授業が可能です。	1時間ごと教科担任が替わります。同じ教科が続くことはほとんどありません。様々な状況を, 次の教科の先生に伝えることが, 難しい面もあります。
テ ス ト	単元の学習直後に単元まとめのテストを行います。	学期に2回程の定期テストを行います。テスト範囲が広くなり, 応用問題も増えます。
休み時間	先生と一緒に遊んだり, かかわったりすることができます。	次の授業の準備や友だちとのかかわりです。先生も授業の準備等がかかわることがなかなかできません。
宿 題	児童の状況に応じて内容や全体の分量を調節して出します。	様々な教科から出されます。提出ノートは自分で学習内容を決めて行います。
友 だ ち	大勢の児童と集団で遊ぶ機会を意図的に用意しています。	生徒自身に任せる部分が多くなり気の合った友だちと小グループでの遊びが増えます。



キーポイント

- 中学校の特別支援教育コーディネーターが, 中学校の新入生係や通学区域の小学校の特別支援教育コーディネーターと連絡を密にしましょう。
- 会を設けたら, 次の会の日取りを必ず確認しておきましょう。
- 年度当初は, 保護者から支援が必要であると申し出があった生徒を支援対象としてスタートしましょう。

中学校から高等学校へ

発達障害等があり中学校で特別な支援を受けてきた生徒は、「高校生になったのだから、特別な支援がなくても大丈夫」とはいかないことが多いものです。高等学校でも校内支援体制が整備されてきています。合格発表から入学までのわずかな期間で円滑なバトンタッチが必要です。中高連絡会で能率良く、確実に引き継ぐために、「個別の教育支援計画」や「プレ支援シート(※1)」が重要になります。中学校の特別支援教育コーディネーターや進路担当者等が責任を持ち、必要な情報の伝達を行い、高等学校との連携を図っていきましょう。

(1) 特別支援教育コーディネーターが中心となり、小委員会などでプレ支援シートを作成しましょう。

中学校生活と 高校生活との相違点

こんなに環境が変わってしまうのですね。

今まで集団の流れに沿って動いていた個人が、自主性に従って、自分の判断で動かなくてはいけないし、自分の行動に責任をもたなければならないのですね。やはり、Aさんには特別な支援をお願いしておいた方がよさそうです。



	中学校	高等学校
進 級	様々な配慮により、ほぼ全員が進級しています。	様々な配慮もありますが、成績不振や出席時間の不足などで、進級出来ない場合があります。
欠 席	担任が責任を持って把握します。	欠席・遅刻の際は、本人または家庭から学校への連絡がないと無断欠席と見なされ、担任から指導を受けることがあります。
テ ス ト	受けられなかった時は、後日実施など、担任より指示が出され、補います。	受けられなかった時は、追試験等の措置がなされますが、自分から教科担当の先生を回り、指示を仰ぐ必要があります。
進 路	担任や進路の先生がきめ細かに支援していきます。	様々な進路情報が担任や進路の先生から提供されますが、最終的には自分で決断し、努力して道を切り拓くことが求められます。
担任との かわり	担任は細かく指導・助言・指示をします。	担任は一人の人間としての人格を尊重し、責任ある行動を要求します。
	朝・帰りの学活や給食、清掃、授業を通して担当学級生徒と接する機会があるので、生徒の健康や心理状態・家庭の様子等をつかむことができます。	担当学級生徒と接する時間はホームルームや担当教科の授業時間などが主になります。自分から積極的に担任の先生にかかわっていくことが望まれます。
ル ー ル 違 反	学校内で注意、指導を受けます。	場合によっては、登校を認められず、家庭での反省を促されることがあります。

※1 p54, 55, 73参照

自分で困難を伝えられる力を育てる事が、将来に向けて必要な力なのだ。

生徒は

こんな視点を大切に、生徒の姿をシートにまとめていきましょう。

- ・困ったときなど、自らSO Sの表現ができるか。
- ・自主的に選択や決定、報告ができるか。
- ・見通しがもてず不安なとき、どうしたら良いか、解決方法を持っているか。
- ・友だちは作れそうか。
- ・規則正しい生活のリズムを保てるか。
- ・特に欠席、遅刻の心配はないか。
- ・ルールを守る必要性やモラルを理解して行動する意識を、どのくらいもっているか。
- ・自分の苦手場面とそれを乗り越える方法をつかんでいるか。
- ・困ったときに頼れる場所があったり、頼れる人を把握したりできているか。
- ・高等学校卒業後の姿を僅かでもイメージすることができるか。

中学校卒業までには、このような視点から、支援内容や方法を見直す必要があるんだな。中学校卒業後を意識して、自主性の伸長に焦点をあてていこう！！

(2) 連絡会議では以下の内容も確認しましょう

- ・本人の障害や行動の特性とともに、その障害についての一般的内容の説明や支援方法の紹介もしておきましょう。
- ・どのような声かけが適切か、どんなときに興奮しやすくなるか……等、教師が配慮すべき事項を確認しておきましょう。
- ・入学当初から、生徒の得意な教科・分野で満足感や自信がもてる配慮ができるように、生徒の得意なことを確認しておきましょう。
- ・学校が支援に困った場合に、相談できる機関や担当者などを確認しておきましょう。
- ・不適応行動については、どのような状況のときに、どのような状態になり、どのように支援してきたか、また、どのようなときにうまく適応できているのかを伝えておきましょう。
- ・プレ支援シートの内容が関係する職員(学年の先生、教科担当の先生、養護教諭等)全員に理解していただけるようお願いしましょう。

- (3) 高等学校卒業後の生徒が目指す姿や社会生活へのイメージがもてるように、中学校在籍中に本人や保護者と話し合うことも必要です。そして卒業後の社会生活を支援してくれる機関や中学校までにできあがった支援チームを確認し、高等学校に引き継ぎましょう。



キーポイント

- 高等学校では3月に情報の伝達がなされれば、学級編制などに配慮をしていただくことも可能です。中学校特別支援教育コーディネーターや進路担当者等が、中高連絡会等の機会を利用して、「個別的教育支援計画」や、「プレ支援シート」を基に引き継ぎを行きましょう。
- 高等学校の体験入学や説明会で対象生徒の高等学校での行動の様子を観察し、その様子から入学後考えられることもプレ支援シートの中に記入していきましょう。
- 高等学校でも校内支援体制の整備が進んでいます。特別支援教育コーディネーターと連絡を取ることも大切になってきます。

プレ支援シート

「プレ支援シート」は、通常の学級に在籍し、特別な支援を必要としている幼児児童生徒の支援情報を、幼稚園・保育所から小学校へ、小学校から中学校へ、中学校から高等学校へとつなぐためのツールです。環境が変わっても必要な支援が確実に引き継がれるよう、必要な情報を共有しましょう。

記入者所属・氏名： _____

記入日：平成 ____ 年 ____ 月 ____ 日

〔 _____ 〕学校 ⇒ 〔 _____ 〕学校	
ふりがな	現在かかっている医療機関
氏名	医院・病院 先生
	障害の状況 (障害名)
本人の特徴 (性格, 行動, 得意なこと など)	
本人の願い	保護者の願い
これまでの取り組み	
学習の支援	<input type="checkbox"/> 聞く <input type="checkbox"/> 話す <input type="checkbox"/> 読む <input type="checkbox"/> 書く <input type="checkbox"/> 計算 <input type="checkbox"/> 推論する <input type="checkbox"/> 運動 <input type="checkbox"/> その他 (_____)
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> ・進学後、特に必要になる支援・継続的に配慮すべき点はこんなこと。 ・進学後はこのような支援も必要になると予想される。 など </div>
行動の支援	<input type="checkbox"/> 声がけ (指示) <input type="checkbox"/> 集中 <input type="checkbox"/> こだわり <input type="checkbox"/> 忘れ物 <input type="checkbox"/> 当番活動 <input type="checkbox"/> 感情の制御 <input type="checkbox"/> 教室の移動 <input type="checkbox"/> その他 (_____)
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> ・本人にとって、このような不都合がある。 ・それに対して、主にこんな配慮をしてきた。 など </div>
対人関係の支援	<input type="checkbox"/> 人への関心 <input type="checkbox"/> 相手の気持ちの理解 <input type="checkbox"/> 言葉でのやりとり <input type="checkbox"/> グループ活動 <input type="checkbox"/> その他 (_____)

第3章

記入例

記入者所属・氏名：

記入日：平成 年 月 日

〔 〇〇小 〕学校 ⇒ 〔 □□中 〕学校		
ふりがな	現在かかっている医療機関	
氏名	医院・病院 先生	
	障害の状況 (障害名)	
本人の特徴(性格, 行動, 得意なこと など)		
<p>○普段は明るく元気である。社会の歴史が好きで時代劇の漫画をたくさん読み、とても詳しい。</p> <p>○本人の誤った行動に対して友だちから強く言われると、大きな声を出したり時に手を出したりすることがある。</p> <p>○授業中にぐったりと机に伏せるときがある。授業の内容が分からない時にこうした行動を取ることが多い。</p> <p>○プリント学習のように、やることははっきり分かっているものについては落ち着いて取り組む。</p> <p>○集団の生活では全体の動きを見ながらみんなについて行動している。</p>		
本人の願い	保護者の願い	
友だちと仲良く勉強したい。	通常の学級で友だちと仲良く学習したり部活動を楽しんだりしてほしい。	
	これまでの取り組み	今後必要と思われる支援(記入項目にチェック)
学習の支援	<p>① 読書感想文や行事の作文を自分だけで構想し書き進めることが難しい。</p> <p>→ 本人との会話の中で、ポイントとなる言葉を付箋にメモし、それを並び変えながら文の組み立てを一緒に考えた。</p> <p>② 文章を読むときに、区切る場所がわからなくなってしまいやすい。</p> <p>→ 文章の区切りごとに赤鉛筆で斜線を引いた。比較的スムーズに読むことができ、内容も自分で理解できるようだ。</p>	<input type="checkbox"/> 聞く <input type="checkbox"/> 話す <input type="checkbox"/> 読む <input checked="" type="checkbox"/> 書く <input type="checkbox"/> 計算 <input type="checkbox"/> 推論する <input type="checkbox"/> 運動 <input checked="" type="checkbox"/> その他(自己選択)
	<p>① 作文を書くときには、いつ、誰が、どこで、誰と、何をした、どんなことを感じた、などの記入表に自分でメモしてから取り組む方法に移行していく。</p> <p>② プリント学習では、1問目ができたら教師が丸をする。その後の問題にも自信を持ち、集中して取り組みやすい。</p> <p>③ 質問するときは、「AとB、どっち」など選択肢を与える。「どうしたいですか」のような質問には答えにくい様子。</p>	
行動の支援	<p>① 集団全体に向けた指示や注意、二段階・三段階にわたる指示などについては、それに従って行動することは難しい。</p> <p>→ 指示内容は一つだけにし、それができたら次の指示を出すと、行動に移すことができる。</p>	<input type="checkbox"/> 声がけ(指示) <input type="checkbox"/> 集中 <input type="checkbox"/> こだわり <input type="checkbox"/> 忘れ物 <input type="checkbox"/> 当番活動 <input type="checkbox"/> 感情の制御 <input checked="" type="checkbox"/> 教室の移動 <input type="checkbox"/> その他()
	<p>→ 教室移動などでは、隣の席の友だちや、自分から話しかけることの多い友だちなど、本人が身近に感じている友だちに誘ってもらおうとできそうだ。</p>	
対人関係の支援	<p>① 友だちから「〇〇しちゃいけない」「□□はだめ」のように注意されると、かっとなりやすい。</p> <p>→ 「〇〇はしないきまりだね」「△△しよう」のように、落ち着いた口調で指摘すると、友だちからの助言も受入れやすい。</p>	<input type="checkbox"/> 人への関心 <input type="checkbox"/> 相手の気持ちの理解 <input type="checkbox"/> 言葉でのやりとり <input type="checkbox"/> グループ活動 <input checked="" type="checkbox"/> その他(周囲の友だちの理解)
	<p>① 障害についてはお家の方も理解し、本人も得意・苦手という内容で自己理解をしている。学級の生徒に知らせることは本人・保護者共に、了解している。協力的である。</p> <p>→ 入学後、学級集団の人権感覚を育みながら、家庭や関係機関とも相談し、本人の特性や望ましい対応の具体について学級の生徒に話す段取りを綿密に検討・計画し、協力が得られるようにしたい。</p>	

共通理解に向けた研修の工夫

通常の学級で特別な支援を必要とする児童生徒を迎える時、特別支援教育コーディネーターが中心になり、研修係と協力しながら全職員で障害についての基本的理解を含め必要な支援について共通理解をしていきましょう。引き継ぎ文書を読むだけでは実際の対応は難しい場合が多いです。そこで、入学式までの間に研修を行い、学級担任、教科担任、部活動顧問として等、それぞれの立場で具体的に支援のイメージがもてると、安心して受け入れることができるでしょう。(※1)

中学校に行ったら誰に相談したらいいかしら？

中学校でうまく生活できるかなあ？

4月1日～入学式までの間にやるのだな。忙しい時だが計画してみよう。

入学式までに、職員研修を行いましょ

◎学級担任や教科担任が決まったところで、研修を行います。

講義：
障害の理解

外部機関や専門の先生に「障害の理解と対応」という題で一般的な障害の理解について講演をしてもらいます。

演習(個人)：
支援のアイデア

自分ならどのような支援ができそうか自由に書いてもらい、似たものをまとめてタイトルをつけ、まとめます。

演習(小グループ)：
支援の具体

プレ支援シートを活用して具体的な支援内容をそれぞれで考えましょう。

アスペルガー症候群の生徒は友だちとうまくかかわれない場合もあるんだな。

叱っても逆効果になることがあるんだな。頑張りを認めることから始めよう。

授業では、板書をまとめやすくする工夫が必要だな。

トラブルが起きたときは解決の仕方を具体的に示してあげよう。

パニックを起こしたときは静かな場所に移り、落ち着くまで待とう。

※1 自律教育シリーズ第2集p42参照

演習で出てきた支援のアイデアを、似たもの同士でまとめ(K-J法)、プレ支援シートと共に全職員に配布します。

《演習で出された支援のアイデアの例》

パニックに備える

- 事前…パニックを起こしたときの居場所を本人と相談しておく。困ったことがあったら相談室に行ってもよい。担任は休み時間になるべく教室にいることを増やす。
- パニックになった時…インターフォンで職員室に応援を頼む。
- パニックの後…落ち着いたら自分の行動を振り返らせる。

環境づくり

- 生活上のルールを動詞の肯定形(○○します)で本人に伝えるように学年で統一する。

心の安定

- 話すことが好きなので、できる限り話を聞き、会話を増やす。
- 我慢できた場面を認め、褒める。

授業での工夫

- 題材展開と学習の位置がわかるように視覚支援を行う。
- グループで実験をするときに、「温度の測定係」「記録係」など役割を明確にする。
- 本人のもっているこだわりや工夫を楽しめる題材を取り入れる。

得意なことを生かす

- 歴史が得意なので歴史博士として学級に位置づけ、活躍できる場面をつくる。

これがパニックだな。
しばらく様子を見よう。
落ち着いたところで自分の行動を振り返る機会をもとう。



～保護者との懇談～

学級担任と保護者、特別支援教育コーディネーター等が参加し、4月の早い段階で懇談会をもちましよう。プレ支援シートや演習で出てきた支援アイデアを資料とすることも一つの方法です。

- 1 学校で職員が研修を行い、全職員が支援していくことを保護者に伝えます。
- 2 学校での支援の具体的な方法を保護者と共に考え共通理解を図ります。
- 3 二次障害を防ぐため、他の生徒の障害理解を深める支援を考えます。

中学校に入って子どものことを分かってもらえるかと心配していたけど、全員の先生がわかってくれて、誰にでも相談できることが嬉しいです。



先生方が子どものために研修し対応を考えてくださることが本当にありがたいです。

♡ キーポイント

- 準備職員会時に研修を入れてもらいます。最も忙しい時ですから、早めに校長、教頭、研修係と相談して準備を進めましょう。
- 職員に障害についての理解がある程度図られている時、時間が十分確保できない時は、自分ならどんな支援ができるかを考える演習だけでもよいと思います。短時間でできるように工夫しましょう。
- 講師は、生徒が受診している医師、心理士等をお願いするのがよいと思います。都合がつかない時は、指導主事、特別支援学校の特別支援教育コーディネーターなどに依頼する方法もあります。
- 特別な支援を必要とする児童生徒が入学する小学校、高等学校でも行うことが有効です。

これは助かる!引き継ぎ用「スクール・サポートブック」

～個別の教育支援計画を補うもう一つの支援ツール～

引き継ぎ資料には、個別の教育支援計画など様々なものがあります。「どんな子どもなのか、これまでどんな支援を行ってきたのか・・・」と思って資料を見ても、具体的にどう対応すればよいか、必要な情報を十分に得ることができず、どうしたらよいのか困ってしまうこともあります。

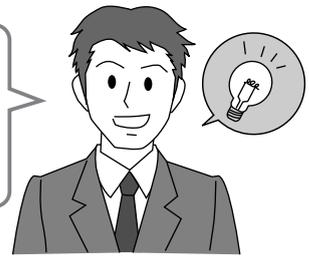


担任としてまず知りたいことは、その子の日課の中での実際の過ごし方やその際の具体的支援の方法などではないでしょうか。初めてその子に出逢った日から、安心してその子にかかわれるような情報を伝えるために「スクール・サポートブック」(サポートブックの学校版)を作ることになりました。



困ったなあ。やさしく誘っても、厳しく言ってみてもやろうとしない…去年まではどうしていたんだろう。

なるほど!こんなふうに対応すれば理解してくれるんだな。



【スクール・サポートブックの主な項目】

- 一日の流れ(日課)
- 学習の様子(個別学習, 作業学習など必要に応じて)
- 休み時間の様子
- 基本的生活習慣(衣服の着脱, 食事, トイレ)
- コミュニケーション
- パニックの様子と対応
- こだわりや癖
- 服薬
- 宿泊学習の様子
- 家庭生活の様子
- その他

その子によって、必要な項目を選んだり加えたりしましょう。教材や支援ツールなどは画像の情報があると分かりやすいものになります。

ただし、必要な情報をしっかり伝えることは大切ですが、あまり多すぎないようにしたいものです。

【スクール・サポートブックの例(抜粋)】

☆一日の流れ

時間	日 課	○活動内容	・支援内容
9:00	登 校	○校門までは保護者同伴。そこから一人で玄関まで来る。 ・下駄箱の所で出迎える。 ・靴の左右を間違えないように、内側の印を合わせるよう声がける。	

9:10	朝の活動	○カバンをロッカーに入れ、連絡袋を教卓の箱に入れる。 ・教室の入口で、カバンをロッカーに入れるよう声がけする。 ○ベランダの鉢に水をやる。 ・適量が分かるように、バケツに水を入れ、一鉢にヒシヤク1杯ずつ水をやるよう声がけする。
9:30	朝の会	○めくり式の進行カードを使って司会をする。(文字とシンボル) ・めくるときは「次めくって」と声がけする。
10:00	グループ学習	○前半はプリント学習 ・なぞり書き、絵と文字のマッチングを行う。 ○後半は集団学習。集中できるように、席は一番前にする。
10:40	生活単元学習	略
11:45	清掃	○雑巾がけをする。 ・始めから終わりまでを数字で示しておく。 ・途中で止まっていたら、「次は6だね」等声がけする。



☆学習の様子

○作業学習

- ・今日はどれだけやるのかを、見て分かるように本人の前に提示する。
- ・組み立て等の作業をするときには、左から右へ順番に部品を並べておく。
- ・初めての作業の時には手順表を用意すると、よく見てやろうとする。(一覧表よりもめくり式がよい)



○個別学習

- ・今日の学習内容をボードで示すと、自分から順番に行っていく。(写真1)
- ・学習内容の「3」は、本人がやりたい課題を選んで貼るようにした。
- ・課題は箱に入れて、順番に重ねて本人の前に置いておく。(写真2)
- ・分からないときには、机に貼ってある「おしえて」カードを指さして聞くよう促す。



(写真1)

(写真2)

☆休み時間の様子

○体育館でトランポリンをする。

- ・終わりにできないときには、10から始めてゆっくりカウントダウンする。「10,9...1,0,おしまい」

○教室でCDを聞く。

- ・ボリュームが大きすぎるときには、シンボルカードを見せながら「ボリュームは10」と伝える。

○パソコンでゲームをする。

- ・「パソコン」とお願いしてきたら、立ち上げをしてセットする。あとは本人ができる。
- ・他にもやりたい生徒がいるときには、写真カードを使って順番を示す。また、一人の行う時間をタイムタイマーで示す。(写真3)



(写真3)

- 次の授業への移動がスムーズにいかないときには、スケジュールボードのシンボルを指さして、「次は〇〇だよ」と声がけする。

☆パニックの様子と対応

○やりたいことができないと、泣き叫ぶ。

- ・スケジュールボードのカードを指さしながら、「〇〇〇終わったらパソコンやろうね」など、いつになったらできるかを伝えると、納得して動けることが多い。

☆教材や支援ツール

○コミュニケーションブック(写真4)

- ・本人が,ウエストポーチに入れて持ち歩くようにしている。
- ・ブックを指さして要求を伝えてくる。また,「どこ行くの?」と聞くと,指さして答えてくる。
- ・教師も,同じような写真とシンボル入りのブックを作り持ち歩いて,本人とやりとりするようにした。



(写真4)

○帰りの会感想ボード(写真5)

- ・「きょうは○○が□□でした」という感想ボードを用意する。
- ・一枚ずつシンボルカードを選んで本人が貼りつける。
- ・本人がカードを順番に指さしたら,それに合わせて教師が読み上げる。
- ・カードは,その日の活動に合わせて教師が用意する。



(写真5)



学校生活をイメージしやすかったので,初日から困らずにすみました。知りたい情報がたくさんあって助かりました。



キーポイント

「サポートブック」は,本来は外部機関との引き継ぎをスムーズに行うために作られたのですが,学校での引き継ぎにもたいへん役立ちます。これを知っていると助かるだろうなという情報をまとめることで,担任や学校が変わっても支援のバトンタッチがスムーズに行えます。これによって,その子はどこにいても一貫した支援が受けられることとなります。

コラム

「サポートブック」とは



「サポートブック」とは,支援する際に支援者に利用してもらう携帯用の手帳のことです。本人の特徴・特性・コミュニケーションの仕方・癖・いろいろな場面での対応の仕方などについて,カード形式等で具体的に見やすくまとめられています。保護者が作って子どもを支援する人に渡していることが多いです。入学や就職,施設入所,ショートステイ,ボランティアへの委託,施設利用,送迎など,いろいろな場面で利用されています。

この手帳を見ることで,初めて本人に接する人でも安心して支援することができますし,本人もいつもと変わらない支援を受けることで安心して過ごすことができます。初めて本人に接する人は何を知りたいかな?どんな情報がほしいかな?と考えて作られているのです。

「サポートブック」は,本人も安心,支援する人も安心,預ける親も安心,みんなの願いを実現するための支援ツールなのです。

サポートブック

